

一般 特定都市河川指定と立地適正化

山下 修（みどり21）



今回の黒沢川特定都市河川指定と流域指定は菊川市小笠地区の都市拠点の流域治水事業を推進するものである。その効用について質問した。

〔Q〕 特定都市河川指定に向けた地元への周知と今後の対応はどうか。

〔A〕 昨年度の市政懇談会において全自治会へ説明、本年3月に棚草自治会及び平川地区自治会での説明会、県による事業者向け説明会を開催した。今後、国・県・市で設置される流域水害対策協議会の検討内容を情報発信していく。

〔Q〕 貯留保全区域の指定は、立地適正化計画の方針と相反する面はないか。

〔A〕 特定都市河川の指定により国や県からの事業費が重点的に配分され流域内の治水事業が進捗し、災害リスクの低減が図られ、黒沢川流域の都市機能及び居住誘導区域の安全性は高まると考えている。

〔Q〕 調整池の築造がどの程度の工事費増額となるのか。

〔A〕 菊川市土地利用事業の適正化に関する指導要綱では、7年確率雨量が基準降雨であるが、特定都市河川の指定により1000mm以上の開発は雨水浸透阻害行為として県知事の許可が必要となり、10年確率雨量が基準降雨量となる。流出水を抑制するため調整池の容量が増え概算で7%程度増額となる。

〔Q〕 黒沢川流域治水対策工事の現状での取組は。

〔A〕 市道への量水標の設置、岳洋中の校庭貯留で2480m³の貯留確保済。今後、棚草川左岸に貯留量約3万8200m³の雨水貯留施設、青葉通り嶺田線の透水性舗装を計画している。



黒沢川排水機場

一般 公園、施設の整備と運用について

本田 高一（菊川ゆめ未来）



市民の皆さまから「菊川市には市民が楽しむ場や、遊び場が少ない」との声があり、学校部活動の地域展開にも関わる、公園、施設の整備と運用について質問した。

〔Q〕 学校部活動の地域展開の推進において、指導者の確保は市民の協力で解決できるが、活動場所については課題となる。例えば、各小中学校のグラウンドの照明器具設置、旧六郷地区センターや現在ある運動公園等の整備、水辺リング菊川の活用に対する考えを伺う。

〔A〕 現在菊川市では、休日の部活動の地域展開について進めているが、現行部活動のように日中の活動を基本としているため、各小中学校への新たな照明器具の設置は考えていない。また、旧六郷地区センターは、耐震性の問題もあり、広く一般の方に開放する予定はない。菊川運動公園多目的広場は、現在、陸上競技について地域展開を進めていることから、既存の幅跳び等の施設整備を行う必要があると考えている。水辺リング菊川については、各種団体から

の要望に応じて整備を考えていきたい。

〔Q〕 近隣の市町から人を集めることのできる公園や施設を造り、使用料をいただくことで施設の維持管理費にするような考えがあるか伺う。

〔A〕 魅力ある公園は、本市の魅力向上へとつながることから、今のところ新たな公園を造る予定はないが、現在ある各種公園のポテンシャルを高めていく考えがある。



菊川運動公園